

いどとしの若者探訪
第2回 ひょうごのお面作家・ギター作家に聞く
vol.1 戯面芸術

知事:皆さんこんばんは。

神野:こんばんは。

吉田:こんばんは。

知事:初めまして。

神野:初めまして。

知事:私が井戸なのですが、こちらが神野翼(コウノツバサ)さん。

神野:神野翼です。

知事:どうぞよろしくお願ひ致します。

神野:よろしくお願ひします。

知事:それから、吉田昌弘(ヨシダマサヒロ)さん。

知事:どうぞよろしくお願ひ致します。

吉田:お願ひします。

知事:お二人とも28歳?

神野:僕は28なんですけども、あの吉田さんは・・・

吉田:今年28です。

知事:じゃあ同い年!?

神野:僕は今年29になるんです。

知事:ああ、吉田さんは、なったばかり?

吉田:まだ27です。

知事:じゃまず、神野さんに。テーブルにお面を持って来ていただいていますけども、

神野さんは、がめん芸術家?

神野:戯面(ギメン)ってよびます。

知事:戯面ですか。

神野:戯面芸術です。

知事:そのお面、口も動くんですか。

神野:ちゃんと喋れるように作ってきたんです。

知事:今回特別に、喋れるように?

神野:いえ、舞台の美術もやっているんですけども、その舞台のなかで役者さんがお面を

被ってセリフを喋れないといけないといったときに、閉じていると声がかもってしまって

喋れないので、何とかならないか、ということで、急遽口が開くようなお面を考えました。

知事:お能なんかで、謡いながら踊るじゃないですか。そのときはやっぱり、かもっていますよね。

神野:そうですね、能とか見えても、口が動かないのが無いわけではないみたいなんですけど。

狐のお面で鳴き狐とか言うのが最後にコーンと鳴くのは、口がパカッと開いたりします。

知事:あ、開いたりするのですか。

神野:まあ、僕の場合はオリジナルという事にはしているのですが、実はあるのです。そういうのが。

知事:あー、そうか。そういうのにヒントを得て。

神野:そうですね。ヒントを得ながら、ちょっと、僕なりに工夫はしてるんですけど。

知事:そうですか。

神野:口の動きにあわせて動くようにするのは、割とコツがいりまして。

知事:それで、それを戯面って言うんですか。

神野:そうですね。お面と戯れるという感じで。

知事:そういう意味で戯面！

神野:遊んでる感じなんです。あの、遊びほうけてるってわけじゃないんですけども。

知事:ところで、お面に関心を持たれたというのは大学時代からですか。

神野:最初はお面を作っていなかったんです。お面を作り始めたのは、大学を卒業してから
なんですけれども。

知事:あ、そうなんですか。

神野;なんかのきっかけで、自分の自画像を描こうとした時に、絵でお面をかぶった人物を描いた
んですね。その時に、なんかひらめく物があって、こっちから一方的に一目惚れみたいな
感じで。

知事:ほおー、自画像を描いて、描こうとしたら、お面をかぶっていた方が、自分の本心が現れ
出た！

神野:現れるみたいな感じで。